

実母になる児童虐待に関する研究

ローラステファニ

0142038

マラナタキリスト教大学

日本語文学部学科

バンドン

2007

序論

本論文は2006年に大都市に住む実母による児童虐待について研究するものである。毎年、実母による児童虐待の件数が上昇する要因には、どのようなものがあるか研究する。

研究にあたっては、現象学という方法を使用する。

本論

その種類に基づいて、児童虐待は四つの種類に分けることができる。それらは、身体的虐待、無視虐待、性的虐待、精神虐待である。また、その要因として以下の四つが大きなものになっている。経済状態による要因、家庭内の不調和による要因、不適切の養育による要因、精神的障害による要因である。この四つの内、不適切な養育による要因が最も顕著に見受けられ。これにより、児童の無視問題が起きるのである。また、一家庭に一子という制度もこの要因が生じることに拍車をかけているのである。

以下に日本における児童虐待の要因に関する詳説である。

1. 経済状態による要因

仕事量が多いため、家長は家族に与える時間が少なく、家事及び子の養育は、すべて母親に任せられる。そのため母親はストレスに陥る場合が多い。また、経済大国においては、さまざまな分野における競

争が激しい。そのために、人々はストレスの陥り、それを発散するため児童虐待するというケースもある。

2. 家庭内の不調和による要因

ここでいう不調和な関係は、単に夫婦の関係だけではなく親子の関係も含まれている。妻は、夫が家庭のことにあまり注意を払わず、仕事を重要視すると思い。また自分は、家事や子供の養育を夫に任されたと思ったので関係の不調和が生じるのである。妻は、家庭の重大な責任を負わされてストレスになるのである。そして、そのストレスを発散する的手段として、いつも自分の身近にいる子供がいるのである。

3. 不適切な養育による要因

上述したように家庭の不調和な関係が児童虐待の要因になる場合がある。このことが意図的にまた非意図的に児童虐待につながるのである。この虐待は、母親の児童養育に関する。知識及び経験が少ないためである。

4. 精神的障害による要因

日本では、精神的障害を来たした人が多く見られる。これは、日本人の生活水準が高いためである。生活水準が高いため、ストレス度も高

いのである。ストレス度が高くなればなるほど人々は精神的障害を被りやすくなるのである。

この要因も児童虐待につながることも多いのである。

結論

上述したことから、次の結論を引き出すことができる。日本における実母による児童虐待は、家庭内の不調和な関係、不適切な児童の養育の不慣れ、精神的しょうがいに起因するのである。

RIWAYAT HIDUP PENULIS

1. DATA PRIBADI

Nama : Laura Stefany
Tempat/Tanggal Lahir : Bandung, 21 November 1983
Jenis Kelamin : Perempuan
Agama : Islam
Anak Ke : 1 dari 4 bersaudara
Alamat : Bandung
Kewarganegaraan : Indonesia
Nama Ayah : Drs. Lili Durasid
Nama Ibu : Dra. Susy Widyaningsih

2. PENDIDIKAN

1989-1995 SD : Sekolah Dasar Kristen Yahya Bandung
1995-1998 SLTP : Sekolah Lanjutan Tingkat Pertama Negeri 5 Bandung
1998-2001 SMU : Sekolah Menengah Umum Negeri 19 Bandung
2001-2007 : Mahasiswa Universitas Kristen Maranatha Fakultas Sastra
Jurusan Sastra Jepang Bandung